

Sustainable Report No.065

ペットボトルの 「水平」リサイクル



サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

- 原油をはじめとする**資源の高騰**は、メーカー企業の調達コストや物流費を圧迫している。
- 人口増加等から化石燃料の消費は拡大し、残り53.5年で**石油資源が枯渇**するシナリオがある。
- 飲料メーカーは、石油からつくられる樹脂を原料とするペットボトルを**安定調達するために素材の見直し**を始めている。

■ 飲料メーカーによる価格改定

2023.02.06 専業・活動 ニュースリリース配信サービス
 ● ニュースリリースTOPへ戻る

価格改定に関するお知らせ

アサヒ飲料株式会社(本社 東京・社長 米文丈一)は、5月1日出荷分から一部商品の価格を改定します。

原材料価格や包装資材、エネルギー価格の高騰に伴い、引き続きお客さまに高品質な商品を安定的に提供するため、今回やむを得ず価格改定を実施することとなりました。

当社では2022年10月1日出荷分から大型PET・小型PET・コック商品などの価格改定を実施しました。しかしその後もコストの上昇が続いており、物流費なども上昇しています。このような厳しい環境の中、高品質で安心・安全な商品を安定的に提供するため、事業活動全体でコスト削減や生産性の向上に努めてきましたが、企業努力だけでコスト上昇分を吸収することは極めて困難な状況です。

アサヒ飲料は「社会の新たな価値を創造し、我々の『つなげる力』で発展させ、いちばん信頼される企業となる」というビジョンの実現に向けて、引き続き企業努力による効率化を進めるとともに、新たな価値を創造する高品質な商品・サービスの提供を行ってまいります。

■ 価格改定日と主な対象商品

改定日	品種	対象商品
5月1日	PETボトル・リターナブル瓶・紙パック・パウチ・ボトル用・缶商品	「三ツ英」「カルビス」「ウィルキンソン」(ワンダ) など ※2022年10月に実施した価格改定対象商品の一部(缶250ml、缶160ml)の再改定を含む

■ 改定率
メーカー希望小売価格を約4～25%引き上げ

出典：アサヒ飲料

■ 石油の可採年数は53.5年

世界の石油確認埋蔵量は、2020年末時点で1兆7,324億バレルであり、これを2020年の石油生産量で除した可採年数は53.5年となりました。1970年代の石油危機時には石油資源の枯渇が懸念されましたが、回収率の向上や新たな石油資源の発見・確認により、1980年代以降は、40年程度の可採年数を維持し続けてきました。近年では、米国のシェールオイル、ベネズエラやカナダにおける超重質油の埋蔵量が確認され、可採年数は増加傾向となっています。

出典：エネルギー資源庁

■ 実行者／解決方法／残る課題

- 清涼飲料の市場でトップシェアを誇るコカ・コーラ（The Coca-Cola Company）は、資源の消費と調達の見点から**飲料容器のデザイン設計を変更**し、リサイクルによる廃棄物の削減に取り組む。
- 国内では、商品のペットボトルの100%を、2030年までに**使用済みPETボトルの再生素材**等に切り替える方針を掲げ、新たな化石由来原料を使わず半永久的に「ペットボトル」としての資源循環を加速する。
- 再生するための回収時には、包装フィルムやキャップが付いたままであったり、中身の飲料が残っていることも多く、リサイクルボックスの**異物混入対策**がより強化されるだろう。

■ グローバル目標の廃棄物ゼロ



設計

- 50% サステナブル素材[※]の使用率（2022年までに）
- 100% サステナブル素材[※]の使用率（2030年までに）
- 100% サステナブル素材[※]使用製品の割合（販売本数ベース）
- 35% さらなるペットボトルの軽量化（2004年比）（2030年までに）

回収

- 100% 販売量と同等の回収量（2030年までに）

パートナー

- 環境保護団体や業界団体との幅広い連携（2030年までに）

※サステナブル素材：ボトルtoボトルによるリサイクルPET素材と植物由来PET素材の合計

出典：コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

■ 100%リサイクルペットボトル



2022年第一四半期に国内の清涼飲料事業におけるPETボトル容器のサステナブル素材使用率50%を達成

出典：日本コカ・コーラ株式会社

▶NEXT：リサイクル素材100%のものづくり

■ 弊害の原因／理想／企業施策

- 使用済みの容器包装の回収は、その**リサイクルコスト**から容易ではない。それらは長期的な環境コストの視点を含まない新品原料の調達コストと、天秤にかけられやすいのではないか。
- 社会全体がリサイクルの意識を持ち、ごみが資源価値を持つことを認識し、枯渇を招かない**安定調達・安定供給の仕組み**が当たり前になることが理想である。
- 企業には、水平リサイクルの認知度向上を経て、**商品回収100%**に取り組むことを前提とした事業計画が展望となる。

■ サーキュラーエコノミーによる解決アプローチ



■ WWFジャパンが企業に呼びかけ



出典：左右ともにWWF

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- アサヒ飲料株式会社, 「価格改定に関するお知らせ」, 2023年2月6日
(https://www.asahiinryo.co.jp/company/newsrelease/2023/pick_0206_2.html)
- 資源エネルギー庁, 「令和3年度エネルギーに関する年次報告（エネルギー白書2022）」, 令和4年6月
(<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2022/>)
- コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社, 「資源への取り組み」, 2023年6月17日参照 (<https://www.ccbji.co.jp/csv/environment/>)
- 日本コカ・コーラ株式会社, PR TIMES内「100%リサイクルPETを使用した「コカ・コーラ」表示シール付きラベルレスボトル2023年5月29日（月）より期間限定発売」, 2023年5月24日 (<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000821.000001735.html>)
- WWF, 「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」, 2023年6月17日参照 (<https://www.wwf.or.jp/campaign/pcc2025/>)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的著作権は株式会社小川電機に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。